

## 2025年3月期第3四半期 決算説明会 質疑応答（要旨）

※赤字：不明瞭な記載箇所を修正（2025年3月13日）

**Q:** 第3四半期の為替の影響を除いた場合の原価率が悪化した要因は。

**A:** 要因は未実現利益への為替影響であり、第3四半期累計で+29.2億円発生した。急激な円高影響もあり、試算上の為替効果が過大に表れ、粗利にポジティブに影響している可能性がある。具体的には、日本から輸出した製品への影響であるため、製品等の原価へ影響した。そのため、上期では対前年比で改善であったところ、第3四半期では為替の影響を除くと製品等の原価が悪化に転じたが、実態としては製品等の原価が悪化しているわけではないと考えている。

**Q:** 販管費および研究開発費の今後の見通しは。

**A:** 労務費やインフレの影響については、大きな変化はないと考えている。販管費と研究開発費をあわせて、全体的にコントロールしていく予定である。コスト管理を徹底しつつ、必要な投資を行うことで、収益性の向上を図る。

**Q:** 第3四半期の中国市場の状況および通期の見通しは。

**A:** 第1四半期は血液凝固分野の機器の出荷が遅れた影響もあり、若干スローなスタートだったが、第2第3四半期と好調に回復。ヘマトロジー分野のローエンドモデルの現地生産品も販売が好調。さらに2025年1月からは免疫検査分野HISCLの現地生産品の出荷もスタートしたことから、今後もこの流れを維持できると考えている。

**Q:** 血液凝固分野のOEM契約の進展状況は。

**A:** EMEAは他社からの切り替えが順調に進んでいる。米州は想定よりスローな立ち上がりであるが、受注も増えており、来期には血液凝固分野のビジネスが本格的に立ち上がる見通しである。

**Q:** インド市場の成長見通しは。

**A:** 今期33%の伸長を達成した。中期経営計画最終年度である2026年3月期の計画である100億円を1年前倒しで達成可能な勢いである。来期から新生産拠点の稼働も予定しており、引続き同様の成長が期待できる。

**Q:** メディカルロボットの欧米展開の進捗はどうか？

**A:** 欧州市場には2026年3月期に参入予定であり、薬事申請も最終段階にある。米州については、FDAの認可を取得し、十分に準備を行った上で市場参入する予定である。欧米市場での展開が順調に進む見通しである。

以上

---

## Disclaimer

- ・本資料のうち、売上予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載されている製品等の情報は、薬事認可取得の有無に関わらず宣伝広告および医学的アドバイスを目的としているものではありません。